



墨は、像を描くためではなく、  
視覚そのものを静かに組み立てていく。

《菖》では、花は自然の再現として置かれていない。

紙の中で重なり合う墨が、  
像の輪郭をゆっくり曖昧にしていく。

見ることは定着せず、  
視線だけが静かに漂っていく。

## 《觀照》の中で

《觀照》が扱う「照見」とは、  
対象を明確に捉えることではなく、  
見え切らないものの間に、  
見ることそのものが静かに現れてくることにある。

大竹卓民の水墨は、  
像を固定せず、  
紙・墨・余白の関係の中で、  
見ることそのものを漂わせている。

そこでは花もまた、  
描かれた対象ではなく、  
見ることが留まり続ける気配として存在している。

《观照》所说的“照见”，  
不是把对象看得更清楚。  
而是在那些未被说尽、未被固定之处，  
观看本身，慢慢出现。  
大竹卓民的水墨，  
并不急于完成一个明确的图像。  
墨、纸与余白彼此游移，  
视线也随之停留、漂浮。  
于是，花不再只是花。  
墨、纸与余白之间，  
观看慢慢停了下来。

# Artist | 大竹卓民

おおたけ たくみん | 1958 -



旅日華人藝術家。東洋繪畫における現代的視覚構造研究の重要な実践者の一人。武蔵野美術大学日本画学科卒業、筑波大学大学院修了。中央美術学院保護学院 院聘教授。女子美術大学 講師。敦煌研究院美術研究所 客座研究員。長年にわたり、岩彩・泥彩・墨彩を通して、東洋繪畫における造形、空間、そして「見ること」の構造を研究。敦煌壁畫や宋元卷軸繪畫研究を基点に、「色面造形」「図底同構」などの理論を提起し。また水墨においては、「制作型水墨畫」理論を通して、筆墨を再現から解放し、現代的な視覚言語として再構築している。大竹卓民の作品は、伝統水墨を継承するのではなく、紙、墨、余白の関係そのものを開き直すことで、東洋繪畫における“見ること”の感覚を静かに更新している。

旅日華人藝術家。東方繪畫現代視覚結構研究的重要實踐者之一。長期致力於東方繪畫中“造形、空間與觀看結構”的研究，並提出“色面造形”“圖底同構”以及“制作型水墨畫”等重要理論。其創作並非對傳統水墨的簡單延續，而是在紙、墨與余白的關係之中，重新打開東方繪畫中的觀看感知。

## 觀照 KANSHŌ — Heart Sutra as Living Axis

### 般若心經と現代藝術

2026年5月26日 — 5月31日

kokoka 京都市國際交流會館

Reino-e Gallery Kyoto

[www.reino-e.jp](http://www.reino-e.jp)

[info@reino-e.jp](mailto:info@reino-e.jp)